

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		154-01-01			
事務事業名		水洗化促進事業		事務の種類			自治事務(義務的なもの)		
				連絡先			内線2371		
担当部署名		下水道総務課		予算科目	会計		下水道事業		
総合基本計画	施策目標		1		快適でうるおいのある 住みよいまち		款		事業費
	施策		5		上下水道		項		営業費用
	施策の方向		4		下水道事業の推進		目		普及指導費
事業の概要	対象 (誰を・何を)		公共下水道が整備済みの地区における下水道管(汚水)の未接続の家庭						
	目的 (どうしたいか)		公共下水道への未接続家庭をなくし、地域の水環境の保全に努める。下水道の接続率を上げ、公共下水道の健全経営に寄与する。						
	手段 (事業内容)		下水道供用開始区域の未接続家庭を対象とした戸別訪問等により、下水道接続の啓発活動を行う。						

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 補助交付金 690,000円 完済補助金 3,000円 【特定財源】
当初予算額	事業費	1,685	1,595	3,643	
決算額	事業費	1,540	693	－	
	特定財源等	0	0	－	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	訪問件数	単位	件	
指標の説明	公共下水道の整備区域における未接続の家庭の訪問件数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		1,781	1,610	1,300
実績		1,610	1,375	—

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	水洗化率	単位	%	
指標の説明	公共下水道整備区域における接続率			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		87	88	89
実績		88	88	—

【事業費】 補助交付金 690,000円 完済補助金 3,000円 【特定財源】

※事業の参考数値等※ (水洗化率) H24末:85.1% H25末:85.7% H26末:86.1% H27末:86.4% H28末:86.9% H29末:86.7% H30末:86.9% R01末:87.1% R02末:87.5% R03末:87.9%
--

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事业である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	一定の成果は上がっているが向上余地がある。	B
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合について検討の余地がある。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	受益者負担を求める性質のものではない。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題) 水洗化の促進は、地域の水環境の保全に大きく寄与し、清潔で快適な市民生活を確保するのに重要であり、100%を目指し今後も継続していく必要がある。経済的な理由により水洗化(接続)工事が困難な家庭に対しては、積極的な相談業務や根気よく対話する必要がある、また町会等、地域での啓発活動を展開する必要がある。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 水洗便所改造助成金拡充を実施するほか、接続を奨励する制度の見直しを検討する。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

				事務事業コード		156-01-01	
事務事業名		下水道施設等管理事務事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)	
				連絡先		内線2371	
担当部署名		下水道総務課		予算科目	会計	下水道事業	
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	事業費	
	施策	5	上下水道		項	営業費用	
	施策の方向	6	下水道施設等の更新		目	ポンプ場費	
事業の概要	対象 (誰を・何を)	ポンプやゲート等の下水道等の施設					
	目的 (どうしたいか)	下水道施設等の運転管理を確実にを行い、浸水の予防や水環境の保全に努める。					
	手段 (事業内容)	下水道施設等の運転監視及び保全等の維持管理を行う。雨水ポンプ場1箇所、取水ゲート18箇所、貯留施設3箇所、雨水ポンプ1箇所、汚水中継ポンプ場1箇所、マンホールポンプ33箇所、水位監視カメラ5箇所。					

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和3年度決算)※
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 年間施設管理委託料:42,490,800円 【特定財源】 下水道敷占用料:1,647,640円
当初予算額	事業費	74,085	65,590	72,435	
決算額	事業費	67,893	58,974	—	
	特定財源等	1,646	1,648	—	

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	施設の点検数	単位	回	
指標の説明	年間を通じた点検の総回数			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標(見込)	1,670	1,670	1,670	
実績	1,663	1,670	—	

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	施設の安定稼働率	単位	%	
指標の説明	安定的に稼働している施設数÷全施設数×100			
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
目標(見込)	100	100	100	
実績	100	100	—	

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。	

総合評価	現状維持	今後の改善内容
(担当部局による総合評価の理由や課題) 水環境を良好にし快適な市民生活を確保するとともに、浸水から生命と財産を守るために必要であり、都市機能を維持するのに必要な事業である。		(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 維持管理計画に基づき、より安定した施設管理を行う。

令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

					事務事業コード	156-01-02
事務事業名		下水道施設等改修事業		事務の種類		自治事務(義務的なもの)
				連絡先		内線2371
担当部署名		下水道総務課		予算科目	会計	下水道事業
総合基本計画	施策目標	1	快適でうるおいのある 住みよいまち		款	資本的支出
	施策	5	上下水道		項	建設改良費
	施策の方向	6	下水道施設等の更新		目	管渠改良費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	下水道施設				
	目的 (どうしたいか)	下水道施設の老朽化による機能停止や事故発生を未然に防止し、下水道サービスの安定化を図る。				
	手段 (事業内容)	点検・調査を実施し、「下水道長寿命化計画」や「下水道ストックマネジメント」に基づく改築・修繕事業を実施する。				

予算・決算額		(単位:千円)			※主な内訳(令和3年度決算)※
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 委託料 23,635千円 工事費 235,783千円 補償費 8,019千円 【特定財源】 国交付金 21,299千円 地方債 221,600千円
当初予算額	事業費	519,825	458,413	361,439	
決算額	事業費	349,572	267,436	－	
	特定財源等	347,462	262,927	－	

活動指標	(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	改築した下水道施設の延長	単位	m
指標の説明	1年間に改築した下水道施設の延長		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	2,281	1,277	755
実績	2,056	1,181	－

成果指標	(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	改築した下水道施設の総延長	単位	m
指標の説明	改築した下水道施設の総延長		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)	5,786	7,063	7,818
実績	5,561	6,742	－

個別評価			
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的事業である。	A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。	
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。	
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待どおりの成果が上がっている。	A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。	
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。	
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	B
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。	
	受益者負担の割合は適正か。	見直しを検討する余地がある。	

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題) 現在、下水道管渠は、耐用年数を超過しているものも含め、総延長は300kmに達している。また供用開始後20～30年経過する雨水、汚水ポンプ場においても、各設備の経年変化に伴う修繕等が増加傾向にある。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容) 長期的な視点で下水道施設全体の老朽化対策を図るため、ストックマネジメント計画による改築事業を推進していく。